

令和7年度 江戸川区立篠崎中学校学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）1

資料1-①

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>よく学び、深く考える生徒</li> <li>思いやりと規範意識のある生徒</li> <li>思いやりと規範意識のある生徒</li> <li>社会に貢献する生徒</li> </ul>	目指す生徒像 目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に考え、行動できる生徒</li> <li>生徒のやる気に火を付けられる教師</li> </ul>
前年度までの本校の現状	成果 ①読書指導等指導については、かなりの成果が上がってきている。②生徒会予算を投じた、より主体的な生徒会活動については教員から好評である。③学びのユニバーサルデザインを取り入れた授業改善については増補版を完成させた。④CSの開設については準備が整ってきている。⑤働き方改革については、ゆっくりではあるが着実に成果が出てきている。⑥学校財産については、かなりの成果が上がっている。⑦昨年度開設したチャレンジクラスについては、概ね良好な状況でスタートが切れた。	課題	①不登校については、全く成果が表れていない。②自己肯定感を高める取組については今後大きな仕掛けが必要である。③教員の特別支援学級での出前授業については、再度丁寧な推進する必要がある。④学力向上については焦点を絞っての教員への意識付けが必要である。⑤国際交流については、交流先を見付けることが課題になっている。⑥フィットネスエリアの活用については大きな課題である。

重点	取組項目評価の視点	具体的な取組	自己(学校)評価(A~D)			「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己(学校)評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けて		
			数値目標 (赤字が変更事項)	達成度		10月現状・追加取組 (赤字が追加取組)	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	校長所見(案)	継続・廃止
				10月	2月									
学力向上	(1)篠崎中学校「学力向上推進計画」に基づいた学力	①EDOSク、EDO学舎、EDO塾など、家庭と連携した学習習慣の定着 ②反転学習を導入した課題解決型学習に関わる授業研究を計画的に実施	国学力調査結果・数学・英語の平均正答率が、都の平均値以上 R6 国語：本校54.0%都60.6%国59.0% 数学：本校55.0%都56.8%国52.5%											
	(2)学習指導要領に対応した教員の指導力向上	②読べる学習コンクールへの出品を軸にした、読書科の充実	読書館を使った読べる学習コンクール、区内受賞者10名以上 R6⇒529人(内 区内受賞5)											
体力向上	(3)豊かなスポーツライフの実現に向けた取組の充実	①本校の課題を意識した保健体育科の授業における補助運動の充実 ②「フィットネスエリア」を活用した個に応じたトレーニングの各部活動等での活用推進	全学年が都の平均以上 R6 1年 男子：34.5〇 女子：41.1X 2年 男子：40.8X 女子：46.7〇 3年 男子：49.6〇 女子：											
健全育成	(4)自己と他者を大切に、多様性を認め合える人権尊重意識の涵養	①道徳地区公開講座を充実しての学校と家庭の連携を図った道徳教育の ②職員の人権尊重教育に係わる研修の充実(フィールドワーク等)	R6 お内の情報誌											
	(5)生徒理解に基づいた支援の充実	①生徒会予算を投じた、より主体的な生徒会活動の活性化 ②「いいとこ見つけ週間」を設定しての生徒同士の称賛を与える機会を設定した自己肯定感の涵養	hyper-QU 2回目において、学級生活不満足度群が全体の10%以下 R6 1年：17% 2年：17% 3年：10%											
	(6)「未来を担う子供たちの自立に向けて」に準じた不登校支援の充実	①ほっとルーム及びチャレンジクラスを活用した支援の充実 ②不登校・不登校傾向の生徒の部活動や地域活動への参加を促進	不登校もしくは長期欠席者のうち、外部専門機関につながない生徒0人 R6⇒2人											
共生社会	(7)共生社会の実現に向けた特別支援教育の推進	①日常的な交流及び共同学習の機会を設定した、交流及び共同学習の更なる充実 ②全教員による年間1回以上の特別支援学級における出前授業の実施 ③「学びのユニバーサルデザイン」を取り入れた授業の工夫改善	〇全通常学級担当教員による出前授業の実施 〇全教員でユニバーサルデザインを活用した授業等の工夫事例集を増補 R6 増補版が完成											
開かれた学校	(8)「コミュニティ・スクール運営マニュアル」に基づいたCSモデル校の運営充実	①地域の方々を部活動に招いた「篠中サークル」など、地域学校協働本部を活性化させた多様な活動の推進 ②1人1ボランティア運動の推奨(地域祭り、夏ボラ等)	〇篠中サークル設置部活3部活 R6 ⇒ 0部活 〇年間1回以上、生徒の半数以上が地域等のボランティアに参加 R6 ⇒ 全体24%											
	(9)学校情報の積極的な配信	①「篠中ちゃんねる」(動画配信)の充実	年間10本以上の動画の配信 R6⇒14											
その他	(10)教員の生徒と向き合う時間の確保	①篠崎中学校「働き方改革推進計画」に基づいた働き方改革の進捗管理	部活動部時間、月45時間以内年間6か月以上が全体の7割 R6⇒概ね9割が60時間以内											
	(11)より良い学校設備の整備・充実	①学校のデッドスペースを活用した、教育スペースの確保・有効活用	R6 美術室→多目的室 印刷室→移動プール下倉庫整理											
	(12)食育の推進	①家庭科と栄養士の連携を図った生徒の考えた「優秀献立」の充実												

全体共通(通常学級)

